磐城公論

毎月（二回）十五日・卅日發行

福島縣石城郡平町字〇町十九番地
編輯兼發行人　山田政好

福島縣石城郡平町字仲町廿番地
印刷所　二葉舍

福島縣石城郡平町字研町十九番地
發行所　磐城公論社　電話四〇八番

廣告料　五號十二字詰一行五十錢
二場所指定　拾錢增

定價一部　十錢　一年貳圓四十錢

創刊の辞

主幹　山田綠雨

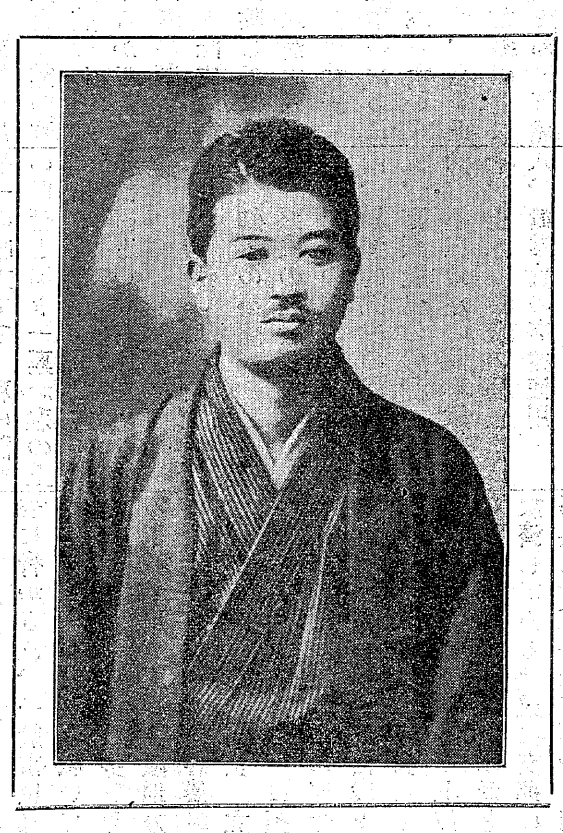
私の生れふるさとの皆さん！本日を期して『磐城公論』と銘打つた本紙を創刊する事になりました。

郷人皆さんも、既に御承知の通り私は從來小册子（パンフレット）や又は、斷片論文（リーフレット）を著述出版して、私の思想の一端を披瀝して今日まで、故山歸來滿四年有餘文筆勞働生活を營んできました。

幸にして郷土の皆さんよりして深刻にして熱切なる贊援、鞭韃、指導、忠言、彈撃（但シ好意的、善導的）を忝うして大過なく又大功もなく、春風秋雨四年の月日は流れ轉じて今日に至りました。

私は郷土生活、四年の過去を、それからそれと追想いたしまして、今更に無量の感慨に耽るものであります。愛慾の炎に身を焦さんとし鬪爭の巷に鮮血を浴び彈撃の壇上に絶叫し其他社會運動及び、政治運動に從事して只今も縣議政戰場の鬪士として日夜、東奔西走、南船北馬聲をからして、應援演説をいたして居る次第です。　かゝる有樣でありますからして、極めて簡潔に創刊の辞を申し述べます。

本紙は絶對獨立の立場に於て嚴正公平なる論陣を張り『社會の公器』たる使命を果します。次に本紙は磐城に於ける高級言論機關として郷土文化運動の第一線に先驅して健鬪いたします。



又本紙は磐城一般大衆の公論を代辯して勇敢に正義の筆劍を提げます。

終りに、本紙は正しき善良なる弱者の味方として決死的覺悟を以つて奮鬪いたします。いろ〳〵と申し述べたいのですが、今や政戰白熱化し、寸暇なきため、追々と遂號申し上げます。

縣會議員各候補者政見の一端

本紙は今度縣議戰に立候補したる十一名の候補者諸君に、滿腔の敬意を表して紙面を無償提供し、その政見の一端を紙上に於て公表する事になつた。本社の此の擧に對して、左の候補は多忙であるにも拘はらず、政見の一端を發表した。

◎鈴木辰三郎

縣會議員選擧期日は既に目睫の間に迫つたのであります、此の場合諸君は政治的責任の重大なる尊き權利行使が將來民衆の利福を信條として十分の御考察をなされ居らるゝことゝ存じますが此の秋に當り自己の不識を顧れば立候補者たること能はざる場合に有之内心忸怩たらざる能はぬものでありますが推薦者諸氏の熱心なる御勸説は遂ひに縣政の第一線に純情を捧ぐる覺悟を持して石城郡民諸君の御聲援を仰ぐ所以となつた次第であります。

私は縣政多端の今日須らく議場專一主義の範圍外にも積極的活躍に俟つべき仕事が少くないと思はれます。幸ひに各位方の御同情により當選の榮を得ますれば公僕として大衆の味方として利害休戚の爲めには只管至誠の一路を邁進する決心であります。而して當面すべき個々問題に對しては常に大處高處より達觀して善處すべく心に期してゐる次第であります。斯くの如く政治的見地を基調として縣政の事柄は決して輕いものではなく、教育政策から生た中等實等教育が完備され、そして教育綱が彼等に敷かれてゐるとは想はれない。土木政策に於ても、勤業政策に於ても、改廢、研究、實行すべき點が多々ある事を見逃す事は出來ません。

時正に昭和の維新、普選の實始て機としまして郷黨の青年諸君に推された、私しは固い決心のもとに敢て既成政黨の公認を求めず中立を標傍して立候補したのであります。

私の老父英吉は五十有餘年の間石城郡の公生活に捧げて來た。私しは老父の意思を繼承して數多い縣治の各種問題解決に凡ての力を盡したいと考へたのであります、私しが前述の如き主義に基いて強く正しく奮鬪する事が即ち石城郡の爲めになる事でありまた國家憲政の爲めに幾分の力となつて腐敗惰落の道をたどりゝある政界の淨化を促すものであると深く信じ疑ひません

◎田子健吉

私の縣政に對する抱負を一言にして盡くせば、縣民の福利を增し本縣をして最も住みよい土地にすると云ふ事にあります。

此の抱負は私しが、永年の持論である處の『政治は空想でなく理論でも無く、また哲學でもない、政治は即ち生活其のものである』、私しが公正なる眼を以つて現在の縣政を看まする時に改善を要し、復舊の必要に迫られ設備の急を告ぐる各種の事柄甚あまりに多過ぎはしまいかと考へられます。

縣の財政政策から生れた現在に於ける縣民の稅額負擔は決して輕いものではない。

敬愛する石城郡民十七萬諸君といふ一大背景に賴つて一歩一歩を圖るべきを斷じて閑却致しません。

以上立候補に對する信念の一端を述べて有權者諸君の御同情を請ふ次第であります。最後に今回は普選法の施行に依り從來の如く親しく御面接の上御依賴申上ぐること能はざる場合に有之自然充分の御了解を得難く誠に選憾に存じます。就ては私の微意御賢察被下御援助賜度く重ねて懇願致す次第であります。

廣瀬貞

無産者の眞の味方は
我が日本勞農黨めるのみ
働く人々よ來り投せよ！

私は多年當郡磐城炭礦の地の底で炭礦夫を勤め上げた者ですから、勿論學問もありません、しかし多年私の苦しい勞働生活は百の學問よりも尊い正して眞理を教へて呉れました。

それは今の世の中では働く者は一日も早く自分の力に目覺めて自分の力によつて起たなければならないと云ふことであります。

金持や地主やその手先の既成政黨のダラク政治家に政治を任して居たのでは眞面目に働く者の浮ぶ時期は永遠に來ません。『天は自ら助くるものを助く』といふことは今日の無産者の我々にとつては一日も忘れることの出來ない眞理です。

炭礦に働らく仲間のひどい勞働と生活を知らぬ氣に資本家は勞働者を一層酷使し賃銀を切下げやうとしてゐます。農村に鎚鍬をとる農民の苦痛も知らぬ地主は小作料の取立てと値上げを急いでゐます。

町の小商人は店を張りて朝から晩まで働いて食ふや食はずで卸店と高利貸に奉納してゐるやうなものです

俸給生活者の生活の苦しみは我々勞働者と同じ無産者の苦しみです、工場に働く勞働者會社に事務とる事務員、學校に教鞭ふる教員役所に執務する官吏、舟板一枚下は地獄の荒波勞働の漁夫、それらの諸兄の生活は金持と地主と既成政黨の政治家にはテンデ判りつこはないのです。

我々の斯うした苦勞を知らない彼等は我々につけこんで我儘勝手な政治をやつてゐます。既成政黨のやることで一つとしてロクなものはない、松島遊廓事件では民政黨の幹部も政友會の幹部も買收されてゐる始末震災手形補償法案では御用商人を國民の血稅で救はうとして末は銀行の取付騒ぎまで起し國民の貯金をフイにしてゐる。農村振興策といつては勞働者をゴマ化して資本家を補助し、稅制整理と云つては商人と勞働者の稅金を重くして金持と地主を補助し、數へ上げれば常に國民は重稅とゴマ化しで喰ひ物にされ通しである

これは一國の政治上のことですが、我々縣會について見ると何うです、安積疏水事件では縣政の不正が曝露され、其他大瀧發電所問題や磐城地方一帶に亘る礦毒問題、一つとして無産階級の利益のために解決された問題はない。

その一方縣稅は少しも改善されないで家屋稅の改稅は無産者の重稅と化し我々無産者には重々の目に見えぬ重稅が雜種稅の名の下に課せられて負擔は日に增す許りである。教育々々といつて學校は中學校、女學校として學校は中學校、女學校ときかについて考慮して居られることゝ思ひます。

今や既成政黨は過去の罪惡の上には底深い生活不安と壓迫とが加はつて來た、各地方に於いて銀行が倒壞し工場は閉鎖され、農村は金融が逼迫した。其の結果勞働者は失業して街頭に投げ出され農民は極度の生活不安に脅かされ、一般市民はせまり來る不景氣に戰いて居る。日本全國の狀勢を見ろ！神戸川崎工場京濱地方の大量的な首切り、各農村を襲つて居る立入禁止、立毛差押の强制執行、小口預金不振等は我々自身の運命ではないか。現政府は我々民衆のかゝる窮乏に對しては少しも顧みる所なく七億の巨費を投じて大資本家を救濟してゐる。或は支那に出兵し、三井や三菱や安田や大倉などの資本家を保護してゐるこの七億の資本家救濟費や、巨大なる軍費はみんな俺達民衆の懷から搾り取られる金なのだ。現在の金持や政府は財界混亂によつて我々民衆を貧乏のどん底につき落しして置きながら更にその上に彼等を救濟する金を我々から搾らうと云ふのだ。一體我々の不滿や政治的要求が現在の政治のどこに反映してゐるのだ。地方政治にして見た所で同じ事だ。現在の縣會の一體どこに縣民の意志と要求とが反映されてゐるか我々の要求してゐる事が行はれた事があるだらうか。

大瀧發電所問題もそうだ平町民、好間村民、湯本町民磐城、入山、兩炭礦從業員十數万人の利害に關する大問題であり、之が猛烈なる反對があつたにも拘はらずこれを蹂躙して發電所設立を認可してゐるではないか。そして既成政黨は我々民衆のためにこの問題を少しも解決せず、徒らにこれを泥仕合の具に供してゐる。一體知事は誰の爲めの知事だ既成政黨は誰の爲に戰ふ政黨だ。大瀧發電所問題を見ても明白な事だ。

小名濱築港問題の解決の如きもそうだ。小名濱築港に依つて直接利益をうけるのは常磐地方の資本家である然るに彼等は出來るだけ自分で少なく金を出し、縣民の負擔によつてこれを解決しやうとしてゐるのだ。我々は築港費の資本家全負擔に依る即時解決を要求しなければならない。そうでなければ我々が金を出して資本家を儲けさせるだけなのだ。其の他常磐地方一帶に亘る鑛毒問題、土地の龜列陷沒問題、四倉セメントの降灰問題等の如き眞に民衆の利益の爲に戰つた者があつたゞらうか。我々は今民衆の利害を代表すべく民衆の爲に戰ふ政黨と代表者を必要としてゐるのだ。

勞働農民黨は全民衆の味方として勇敢に戰つて來た唯一の政黨である。今春以來議會解散、普選即行を要求し出兵反對を叫び、七億の金で資本家を救ふより民衆を救ふ事を要求し更に失業手當法、耕作權確立家賃値下運動等全勞働者農民、市民諸君の利益のために常に先頭に立つて戰つて來た。

勞働農民黨こそ我々民衆を代表する唯一の黨であり。福島縣政に於いても勇敢に戰ひ得る唯一の黨なのだ。

私は一介の勞働者に過ぎない。而し私が敢てこゝに立候補するのは私の後に强大なる勞働農民黨があり勞働農民黨の政策を支持する幾萬の同志諸君が控いて居るからだ、そして私は黨の政策に從ひ同志諸君の援助に依つて勇敢に戰ふたけの自信があるからだ。

全石城地方の縣民諸君我々は今まで、選擧權を與えられず既成政黨の横暴と官僚的縣知事の專制に對して充分に戰ふ事が出來なかつたが、而し我々は今新しい選擧の舞臺に上つたのだ。

我々の持つて居る所の不平と不滿と要求とを今までの官僚知事に對し、金權政治に對し投げつけやうではないか。民衆の團結が如何に力あるかを彼等に知らせやうではないか。勞働農民黨はその先頭に立つて戰ふのだ。

私も勇敢に諸君の爲に戰ふ事を盟ふものだ。

山代吉宗

春の財界混亂以來我々民衆の上には底深い生活不安と壓迫とが加はつて來た、各地方に於いて銀行が倒壞し工場は閉鎖され、農村は金融が逼迫した。其の結果勞働者は失業して街頭に投げ出され農民は極度の生活不安に脅かされ、一般市民はせまり來る不景氣に戰いて居る。日本全國の狀勢を見ろ！神戸川崎工場京濱地方の大量的な首切り、各農村を襲つて居る立入禁止、立毛差押の强制執行、小口預金不振等は我々自身の運命ではないか。現政府は我々民衆のかゝる窮乏に對しては少しも顧みる所なく七億の巨費を投じて大資本家を救濟してゐる。或は支那に出兵し、三井や三菱や安田や大倉などの資本家を保護してゐるこの七億の資本家救濟費や、巨大なる軍費はみんな俺達民衆の懷から搾り取られる金なのだ。現在の金持や政府は財界混亂によつて我々民衆を貧乏のどん底につき落しして置きながら更にその上に彼等を救濟する金を我々から搾らうと云ふのだ。一體我々の不滿や政治的要求が現在の政治のどこに反映してゐるのだ。地方政治にして見た所で同じ事だ。現在の縣會の一體どこに縣民の意志と要求とが反映されてゐるか我々の要求してゐる事が行はれた事があるだらうか。

野崎滿藏

×

私は淺學韭才縣會議員の器ではないと思ふが、黨員者は予盾の極みである。君の熱心な勸告により遂に意を決して政治に關係したのは全く最近の事で、去四十二議會に普選擧法案が上提され解散となつた當時河野廣中、川崎卓吉、永井柳太郎等の各氏が平町で普通選擧に關する演說をなした時私はその演說を聞き非常に之に感激し制限選擧では駄目だ、納稅資格を撤廢し人物を主眼とする普通選擧法案を飽くまで實行せしめねばならぬと決心した。

その當時私の親戚の全部が政友會員であつたが私は眞理に向つて突進しやうとの決心は遂に私を親戚と離反せしめるに至つた。そして普通選擧の實施に運動をした其後普選の貫徹の國民大會が再三再四東京に開かれたその際私等は一回も欠かず上京し、或時は警視廳に檢束をされた事もある。其の後も微力ではあつたが私は運動を繼續した、今やその實施に遭ひ私は心から愉快に感ずる。

かうした點で黨員は私を候補者に推した事と思ふ、然し私は現在の普通選擧を完全な者とは思はぬ。普選の目的は國民全体に參政權を與へ選擧界を革正するといふ點にあるか現在の二十五歳以上を二十歳に改めねばならぬと思つてゐる。二十歳になれば兵役の義務ありその軍人を　陛下は股肱と頼ませられてゐるのに之を閑却して參政權を與へぬのは

私は立候補に當つて痛切にぬと思ふ。教育設備は中學校は最近專門校に入學する機關として地方に利する點思ひ出すのであるが往年宮田知事は三千圓宛の金で五名の縣會議員を政友會に抱き込んだ。その際河野廣中氏は自由民權を叫ぶ事三十年今にしてこの恥辱を見ると泣いて口惜しがられた事がある。私はその河野さんの姿が目に浮けで來る。私は斷じて變節はしない。飽くまで民政黨のために働らく事を誓ふ。縣政に對する突發事は親しく選擧民と相談の上行ふ事を契ふ。私の縣政に對する意見は

一、農漁村の振興
二、勞資協調
三、教育設備の改善

等である農村の振興を計るには主要物産の價格を維持するため農業倉庫の如きものが必要と思ふ。四倉繭市場の値段は時價より十貫匁で十圓位高價である之による利益は農村に於て一ケ年二十萬圓である、漁村のためには機械による遠洋漁業を行はせるため船舶に對する補助を與へねばならぬと思ふ、勞資協調の點については私は勞働方面に經驗がないから今後研究しやうと思ふが勞働組合は大体法律か之を認めてゐるのに徒に之を壓迫する事は不當である。又勞働爭議は之がため事業家の損失偉大でかゝる事が連發すれば資本家は事業から遠ざかる原因となり地方不振の因となる。故に勞資協調をはからねばならすのだらうが自動車は交通機關として地方に利する點が多い、又政治家でも食はねば仕事は出來ぬ生活根據を安定して政治を行ふのが當然だと思ふ。さうでなければ職業政治家となり危險である。

兎に角今日まで片濱より出た事がないから宜敷く御同情あらん事を切望する。

驚　清昇君
縣民負擔の公平
中産階級生活安定
交通機關の完備

故山の有權者
諸君に檄す！

山田綠雨

普選前衛戰としての府縣會議員選擧は本月廿五日に行はれる事になつたお互ひ有權者は、殊にわれら新有權者は神聖なる「清キ一票」の行使に就て深觀内省せねばならぬ。

抑〻普通選擧法案は、わが福島縣の生めるる憲政の神とまで崇敬せられた故河野廣中先生外卅八名の代議士が明治卅五年二月十二日、衆議院に提出したのであつた。爾來九年にして衆議院を通過し更に十五年を經過して貴族院を通過して、普選法案は制定されたのである。

春風秋雨廿四年間の日月を經て、普選はわれらのものとはなつたのである親敬措かざる、余が生れふるさとの鄉士人諸君！就中、有權者諸君!!!殊に新有權者諸君!!!

かくして、われらのものとなつた選擧權を、いよ〳〵來る廿五日を期して行使する千載一遇の秋に直面した而して、今や、政戰の巷、十一の候補者は、日夜不斷の活動を强行し百餘の運動員は、東西に飛び、數十の應援辯士は壇上に聲をからして血叫する。政戰の壯態、マコトニ壯絶快絶、むしろ悲壯の極に達して居る。正に前古未曾有有史以來の『政戰劇』でアラ子バナラヌ。鄉人諸君よ！有權者諸君よ!!!諸君は此の「政戰劇」の觀劇者であると共に劇中の人物である更に飜つて思ふ。全世界の國民は張目して今度日本帝國に行はるゝ普選の成績を環視してやまぬ。故山の有權者諸君、諸君の有する清キ一票は夫れ果して何人に投ぜんとするか何人に投票するも諸君の絶對自由の權利である。されど深觀猛省百番せられよ。現下の政界は腐敗の極に達して居る。かつては政界の君子として崇敬せられ國民の儀表として尊仰せられたる政治家は、白日の下、その積惡曝露せられ何んの面目あつて再び國民に見えんとするか。

政治家不信の叫びは若人のスローガンだ。政界革新の警鐘は亂打されて居る。奮起しやうではないか。蹶然起つて邪惡の政治家を絶排し暗黑の政界に一道の光明を導き入れやうではないか。

故山の青年諸君　新有權者諸君　此度の選擧こそは、夫れ政界革新のために晴天のヘキレキ彈を投すべき絶好の秋である。

本郡縣會議員候補者
フース・ヒー人物管見

（管見生）

政戰の幕は切つて落された。本縣下第一の激戰地として定員六に對し十一名の縣議候補者が出現した。

二＝6＝5なるが故にいくらジタバタ狂奔しても五名は甚だ氣の毒ながら所謂落選てふ政治的悲劇の運命に遭遇せねばならぬ。

男子生れて政治家たらんとす又難き哉！と痛嘆せざるを得ないデバナイカ？

本文の筆者はかつて大正十二年一月本鄉區補缺選擧に於て政界の君子、島田沼南先生の勸說斥け難く當時の革新倶樂部公認候補長島隆二氏を應援し、見事に敗戰の悲哀を滿喫して落選てふ政治的悲劇が深刻なる悲哀であるかを体驗した。

すまじきものは落選落第、失戀の三である。

さるても此度普選前衛戰ともいふべき府縣會議員選擧に而も政戰最も激烈なるこゝ石城の天地より決死的覺悟を以つて「鄉土に捧ぐ」「縣政に奉仕する」殉鄉の精神爆發して、雄々しくも立候補せる十一名の各候補者に對して滿腔の敬意を表してやまぬものである。

さらば是より一管の禿筆を呵して、各候補者人物管見を試みやう。

井上茂作君

一度び演壇に立つて、君獨特の天來の快辯を振ふや三千の大衆を感激せしめ二度び平消防組頭として陣頭に立つて高手を振ふや、全市を燒かんず猛火も立ち所に消える。三度び郡民代辯者として縣政壇上に獅子吼するや君が長廣舌は議場を壓倒するの概がある。

立憲政治家として最先必要條件たる言論の雄として而も石城がもつ第一の名物男として快男子井上茂作君の再選を期してやまぬ。

山代吉宗君
廣瀨　貞君

國民は既成政黨の泥仕合に愛憎づかした。既成政黨打破の雄叫びは全無產階級のスローガンではあるまいか青年讀書階級の過半も此の合言葉に深刻なる共鳴をもつ樣だ。果して是乎。非乎。

山代吉宗君はわが石城が產める無產階級解放運動の青年鬪士として唯一人の純生鄉土人だ。

資本主義一大帝國たる磐城炭礦、入山採炭を向ふに廻して血塗れの鬪爭をやつたロシヤ人の如き風丰の所有者現代の資本家主義經濟組織の不合理を痛擊してまぬ社會改造家である。

廣瀨貞君も亦山代君と等しく勞働運動の青年鬪士である沈痛悲壯なる底力ある音聲の持主、地下人の呻吟をきく如き君が壇上の血叫は、既成政黨の黨人輩の所說とはその選を異にする。君が心奥靈底に秘める熱血はやがてベスビヤス活火山頭、天に柱する炎となつて常磐勞働階級解放運動の燎原の火と化す秋も來るだらう！

廣瀨、山代兩君！勝利の月柱冠は終りまで耐え忍ぶものに歸す。攻界革新の警鐘は亂打された。普選は全無產階級解放運動に絶大の便宜と好意をもつ。折角健鬪祈る。

○

田子健吉君

余は君と數年前、唯一度百七銀行頭取室に於て遭つた記憶がボンヤリあるばかりだ。どんな第一印象を余に與へたか？夫れも確實には覺えてない。たゞ君の令弟六郎君とは磐中の同級生であつた關係上、令弟の性格より推察して君を管見するのみだ。

君の親父、英吉翁は清廉なる人格の士として鄉人より崇敬され、石城憲政會の長老として憲派黨人より滿腔の敬意を表されて來た。而るに君が此度突如として所謂中立を標示して立候補した。

君は故山の政界に分解作用を惹起す、晴天の霹靂彈を投下したかの感を催す。

君父子に對する黨人輩の紛々たる區々の是々非々を一蹴して、敢然として普選第一の武器たる言論と文章を以つて健鬪する心意氣を

壯とするものである。

余は余と等くし文筆勞働に從事する文化業者たる君の政界進出を歡迎するものである。

×

野崎滿藏君

昔、封建の昔、上杉謙信と武田信玄は川中島を挾んで對陣した。『信玄倒る』の飛報に接して謙信は好敵失へり……と悲嘆にくれた。斯くの如きがわれら祖先の信奉し實行した武士道の精精であつた。

今コヽ、石城平の天地に川中島ならぬ「大瀧發電所問題」を挾んで余が親敬やまぬ。井上、野崎兩君は數年來對陣して居る。

兩雄の勝負なか〳〵に決せず、さては兩雄、打ち揃つて縣會座に於て雌雄を決せん下心？デハアルまいが井上野崎兩君の演ずる政治劇は觀衆の興味をいやが上にもそゝつてやまぬ。

さて常に余に忠言を呈してやまぬ〔余が斷酒の一事〕又余が苦言を呈してやまぬ石城民政黨の雄將、野崎滿藏君は徹頭徹尾意氣の人だ。感激の士だ。

『人生意氣に感じては功名又誰か論せん』高吟して三尺の秋水拔き拂つて單身、大敵の陣營に乘り込む雄壯なる意氣を持つ感激性に富む人だ。

敵として脅威すべく味方として賴もしき黨人の典型的人物だ。黨人は[illegible]の如く鬪志旺んでなければならぬ殊に鬪爭と彈擊、流行する現代の政界に於ては、鬪犬の如く鬪牛の如く鬪爭心旺盛でなければならぬ。

斯君、此度政戰場裡の人とはなつた。毀譽褒旺相半ばする一黨の雄だけに苦戰の程察するに餘りある。

民政黨所屬黨人が自黨鬪將擁立の戰術は夫れ果して如何！？

×

山崎吉平君

溫厚なる君子としての山崎吉平君は石城政友會の衆望を一身に集中して平銀行を經濟的背景事業的パックとする所謂舊政友系より立候補した。

兎角に反對黨の黨人を痛擊してやまぬ石城の政界に於て、反對黨側の黨人すらも君に對しては批難攻擊の一聲すらも發放せざるは是れ偏に君の人格德望の致す所だ。

君は飯野村々長として多年村自治のために奉仕し、他の政黨政治家の如く利權の爭奪に狂奔したる事なく金融機關を濫用して、自家勢力の增長を企てし事なく谷川瀨の一角より平町を前望して攸々自適の生活を營み來つた。

此度、端なくも或は心ならずも推されて逐鹿場裡の人とはなつた。蓋し天が君子、山崎吉平君に縣議たる使命を下せしものだらう。

現代の政界に於て最も缺如せる一事は『人格の士』僅小なる事である。所謂口八丁、手八丁の智者策士は多けれど『德の人』『人格の士』に至つては、中央、地方の政界を問はず曉星の如く稀である。

人格の士、山崎吉平君の如き立候補者を石城の政界に出現したるは吾人の欣快に堪えざる次第である。

×

若松美二君

若松君は政黨生活者として豐富なる經驗を有し而も赤井村々長として地方自治の鬪士とはなつた。その志、年立候補者と共に、政職場壯とすべく、その意氣旺んといふべきだ。

君や、性格極めて淡泊、君が立候補の政治的意義は君と談論數百回、未だ君よ君や當選の曉に於て、對して他人の惡口毒舌をきつて君が君子人たる一証左は是れ正に君が政治家としての第一義的重要問題だ。

君や、性格極めて敵少なく謙讓の美德を具備し將に先哲の『先憂後樂』の士と稱すべしだ。

余は故山歸來滿四年餘、勞資鬪爭問題解決促進のため渾身の努力を傾注する君が立候補者の政治的意義は蓋し過半、此の一點にある君を應援してやまぬ。是れ君にありては一大脅威であらねばならぬ。

更に他候補者の潛入して陰然として策動するあり。唯、徒らに祖先が扶植したる傳統的勢力を唯一の力として目己陶醉の魔夢に耽つて油斷をすれば、それこそ大變である。

言論と文章による普選法の精神に適合せる立憲的合理的選擧運動を掉尾の奮戰を決行し勝利の榮冠を得べきである。恐らく世界思潮に掉せる新時代の青年……殊に新有權者の眼中には所謂『清キ一票』の立憲的、合理的行使あるのみにして候補者背景の傳統的舊勢力を絶對に認めないであらう。又一切の不純なる舊式選擧運動による諸種の誘惑を絶排して、敢然として所謂『理想選擧』を斷行すべきである。

さはれ、兎に角新人、驚君の決死的掉尾の奮鬪を熱求してやまぬ。

×

古川傳一君

君は郡南の政戰場に於て今や反黨候補者鷺青昇君と爭覇的決戰を死力を盡して日夜經續して居る。

郡南、政友會の長老、千萬馬の古强者たる、安島、金成の兩氏をはじめとして政友會の一黨全力を擧げて君を擁援してやまぬ。

君は文雅の人、白熱的政戰に日夜健鬪すると雖ども尙餘裕綽々として、その昔八幡太郎義家が勿來關頭馬を止めて落花の風情を歌ひ出でたる如き襟懷あり。

討つも討たるゝも戰場の習はしだ。成敗利鈍を超越して一路理想に向つて突進する君の實超越の態度は正に立憲政治家の態度であらねばならぬ。

政治家は平常の心掛が第一である。平常、隣人、鄕人、社會公共のために奉仕する事が大切である。

いざ鎌倉……選擧の時ばかり東奔西走、南洋に住むペンギン鳥の如く胸を張つて壇上より『諸君よ諸君』と絶叫しても駄目である。

君は天資聰明の人、又情熱の士だ。哲人政治家として君が端麗なる風姿は、君が人格の反映である。常に新刊書を繙いて世界思想を研究する讀書人だ。

俗惡政治家過多なる中にあつて、君は正に鷄群の一鶴として余は推稱するのである。

×

鈴木辰三郎君

『智に働けば角が立ち。情に掉せば、流される。意地を通せば、窮屈だ。兎角に人の世、住み苦い。』とは夏目漱石博士『草枕』冒頭の言だ。余、今、此度政戰に打つて出でたる十一名の各候補者、人物管見、最後の人として石城政友會の智謀の士石城の横田千之助として故山の政界に重きをなす鈴木辰郎君を人物管見せうとして心頭を掠むるものは博士漱石の斯の哲語である……

君や一度、高手を擧ぐるや所謂千日養ふは一日の急に備ふるためなる一死以つて君に殉ずるの鬪士翕然として火の中、水の底をも辭せざる程の心意氣を以つて君に絶對奉仕する。

是れ畢竟、君が平生、子分養成に努めればこそだ。

前回の政戰に惜しくも敗れ爾來春風秋雨茲に四年となつた君が此の四年間

鄕土に捧げたる鄕人に奉仕したる業績

は一般大衆の確認する所。さればにや此度の政戰場の最雄强として見做されて居る次第だされど由來政戰は水もものである。表面の現象、人氣のみを以つて輕斷するを許さない若し夫れ輕斷以つて戰士の鬪志弛緩すれば君が四年の雌伏と赫々たる業績は所謂千仞の功一簣に欠くの長恨を止めやう。

余が、親敬やまぬ鈴木辰三郎君と其の一黨の乾坤一擲最後の奮鬪を望んでやまぬ

×

筆者の亂言蕪辭、或は恐る、管見人物の疑評として當らざるかを。さり乍ら萬一にも管見人物の片影を讀者に傳え得る事が出來たならば筆者の欣快とする所である。又若しも管見したる人物の德を傷けし點あらば筆者は衷心相すまぬ次第と深觀する。されど冀は君は

他人の石として御諒承

の程を筆者は十一名候補者諸君の涙ぐましき惡戰苦鬪に滿腔の敬意を表す